

師範大学(先生を教育するための学校)の設立を

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

私は、教育学術新聞からインタビューを受けました。そこでお話したことを非常に高名な弁護士である高井伸夫先生がまとめてくださいましたので、今日の放送で少し紹介させていただきます。

2. 私の話のテーマは、師範大学、つまり先生を教育する学校をつくろうということです。下村博文文部科学大臣や栃木県出身で文部科学大臣の政務官をなさっている上野通子参議院議員たちが一所懸命に教育改革を進めていらっしゃいますので、それに応えるためにも先生養成をきちんと行わなければならないという考えを私は持っています。

この考えを高井伸夫先生にお伝えしたところ、高井先生が長い長い論文にして教育学術新聞の6月11日号に載せてくださいました。その内容を今からお話します。

3. 1つは、何をもって師範学校(昔の教員養成の学校)の中身とするかについてです。言いにくいことですが、現在の大学では先生方は自分の専門領域を教員養成学部の方々に教えていらっしゃる人が多いです。それも素晴らしいことではありますが、私は、例えば小学校の教員を目指している方には、小学校1年生から6年生まで、できれば中学校3年生までの学校の教科書の内容を事細かに教えることが大事だと思います。また、中学校や高校で1つの科目を教える先生には、中学校や高校で現在使っている教科書と指導書を中心にして「このようなことを教えるのですから、ちゃんと理解しましょう」と、すべての内容を事細かに教えることが大事だと思います。そのようにせず、自分の専門領域だけを教えて、あとは先生になってから勉強してくださいというのではあまりにも不親切であると思います。

ですから、私は、学校の先生を志望して大学の教員養成学部で学ぶ方に全科目の学校の教科書と指導書を徹底的に勉強していただくために、教職課程のカリキュラムの半分ぐらいに実際に学校で教えている内容を入れたほうがよいと思います。心理学など先生に必要な学問はたくさんありますが、全教職課程の半分ぐらいは自分で教える内容を大学生や大学院生のうちに勉強できるカリキュラムにすることが大事であると思います。

4. 2つ目は、誰が教員養成学部の先生になるかについてです。専門領域の博士号を持っている先生が教えるのもいいですが、その中には現場で教えたことのない方もたくさんいらっしゃいます。ですから、現場での教職経験が最低でも5年から10年あり、なおかつ、使命感のある素晴らしい人格の方々を先生として迎えて教えることが大事であると思います。

ハーバード大学の大学院には、校長先生になるための教育機関があります。ですから、新任の校長先生になるにはそのための大学や大学院で校長先生としての勉強を1年から3年ぐらいしていただくのも有難いと思います。

5. 3つ目は、誰に教員のための教育をするかについてです。日本の大学では、履修届を出せば誰でも教職課程が履修できます。日本では教員免許状が年間10万通ほど出されています。これはこれで素晴らしいことですが、フィンランドをはじめとする多くの国々では大学の授業料が無料のこともあり、小学校・中学校・高校の教員になる方全員に大学院の修士課程を修得させます。そうしないと、教えるための資格である教員免許を与えません。また、教員教育の対象は、先生としての学力・資質を備えた方です。そのような方にしか、先生としての教育を施しません。日本のように希望すれば誰にでも履修させるということはなく、先生としての適正や基礎的な学力がある方だけを国がお金を出して養成しています。私は後者の方がよいやり方かなと思います。

6. 4つ目は、どのようなカリキュラムにするかについてです。これから先も様々な教育改革が行われますので、それらを先取りするような内容を教員養成課程の中に入れていただけると、今後の社会にとってよい教育ができると思います。

7. 以上のような内容を高井伸夫先生にお話したところ、「それはおもしろい考えだ」ということで教育学術新聞の6月11日号に載せてくださいました。

放送をお聴きの皆さんにも、先生としてあるべき姿とは何か・先生としての資質とは何かなどについていろいろな意見があると思いますが、私は、たとえ小学校の先生であっても大学院の修士課程は修了したほうがよいと考えています。まして、中学校や高校の先生は教える内容が難しいですから、修士課程を必ず修了していただきたいと思います。

8. また、一般の先生が修士課程を修了するのですから、校長先生になる方は当然のこととして博士課程を勉強していただいた上で立派な校長先生になっていただきたいと思います。ただし、修士課程や博士課程では、今までのような細かい細かい論文を書くだけでなく、それとは違うカリキュラムで学んで卒業していただくのがよいと思います。重箱の隅をつつくような論文を書かなければ修士号や博士号がもらえないというのでは細かく細かくなって、かえって狭い人間をつくってしまい、先生には向かないと思います。ですから、大学4年間だけでなく、修士課程と博士課程でそれぞれ2年間・3年間学んだ方々に学校の先生や校長先生になっていただければと思っています。

皆さんはどのようにお考えになりますか。